



第41回青少年姉妹都市 派遣報告書 ホワイトホース市

公益財団法人 松戸市国際交流協会
松戸市 経済振興部 国際推進課

目次

- 01 派遣者名簿
- 02 派遣日程表
- 04 実施記録
- 14 感想文



派遣者名簿

2023年3月現在

氏名	学校名	学年
松澤 朝	千葉県立松戸高等学校	高3
廣田 華実	専修大学松戸高等学校	高1
浅井 環希	江戸川学園取手高等学校	高1
堂本 夏帆	松戸市立和名ヶ谷中学校	中1
草間 桜彩	松戸市立古ヶ崎中学校	中2
松原 花香	松戸市立第一中学校	中2
石井 晴琉	松戸市立金ヶ作中学校	中2
成嶋 宏耀	早稲田大学高等学院	高2

トン アイリス	公益財団法人松戸市国際交流協会	引率職員
佐川 花	松戸市 経済振興部 国際推進課	

青少年姉妹都市派遣事業（ホワイトホース）日程表

月日	現地時間	スケジュール
2023年 3/16 (木) 成田空港 発	16:00 18:35	成田空港第2ターミナル集合 日本航空にて空路、メルボルンへ 宿泊 機内泊
3/17 (金) メルボルン ホワイト ホース ↓ ホワイト ホース クーン 校	06:35 08:00 12:00 14:00 15:00	メルボルン着（入国審査、税関） 移動 メルボルン市内見学 ・クイーンビクトリアマーケット ・フリンダース ストリート駅 ・トラム（路面電車）乗車体験 ・ホージャー・レーン（メルボルンを代表するグラフィティストリート） 昼食：ハンバーガー（Ribs & Burgers） ウエルカムランチ ホストファミリーと対面 移動、各ホストファミリー宅へ 宿泊 ホストファミリー宅泊
3/18 (土) ～ 3/19 (日) ホワイト ホース	各自	ホストファミリーと過ごす 宿泊 ホストファミリー宅泊
3/20 (月) ホワイト ホース	08:30	クーン校にて ・通常授業体験 宿泊 ホストファミリー宅泊

実施記録

3月16日 (木)

成田空港発 メルボルンへ



3月17日 (金)

メルボルン空港到着～メルボルン市内観光～クーナン校



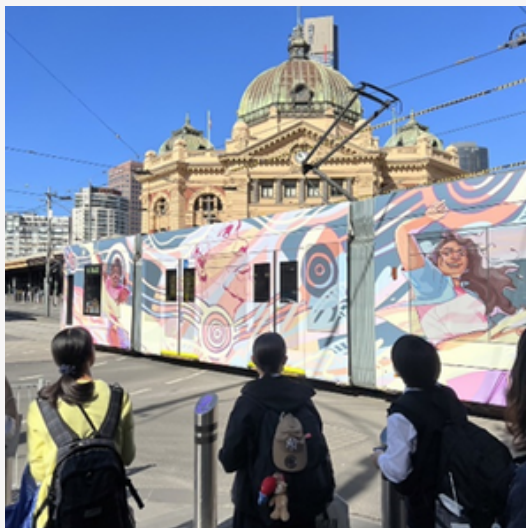
①クイーン・ヴィクトリア・マーケット

南半球最大の市場として知られるクイーン・ビクトリア・マーケットは、1878年にオープンした歴史あるマーケットです。



②フリンダース・ストリート駅

フリンダース・ストリート駅は、1854年に完成したオーストラリア国内初の駅です。エドワード朝の堂々たる建物は、メルボルンのシンボルとして国内外から愛されています。



③ ترام (路面電車) 乗車体験



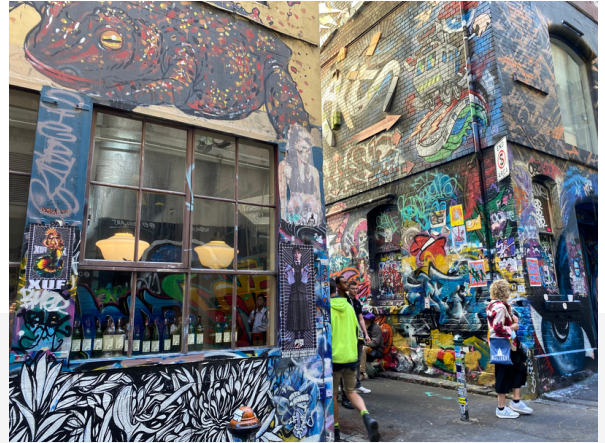
④ コリンズ・ストリート 他

コリンズ・ストリートは、メルボルン市内の通りの中でも一番の名門通りです。いわゆる銀座通りに当たります。



⑤ ホージャー・レーン

ホージャー・レーンは、フリンダース・ストリートとフリンダース・レーン
の間の小さな切り口で、定期的に変化する落書きと、新進気鋭の現代ア
ーティストの作品を展示する一連のライトボックスでいっぱいです。



昼食



クーンン校へ

ウェルカムランチ

- ・派遣生徒とホワイトホース市長・職員、クーンン校の校長・先生、バディをはじめとした生徒が出席。
- ・生徒が市長から直接プレゼントもいただく。
- ・ホストファミリーとも顔合わせを行い、そのまま各自宅へ移動した。



3月18日 (土) ・19日 (日)

ホストファミリーと各自過ごした。

3月20日 (月)

クーナン校・通常授業・日本語授業体験



3月21日 (火)

クーナン校・ヒールズヴィル自然保護区へ遠足



3月22日（水）

通常授業体験（生徒集会）



アンザッククッキー作り
生徒からは美味しいと好評だった。

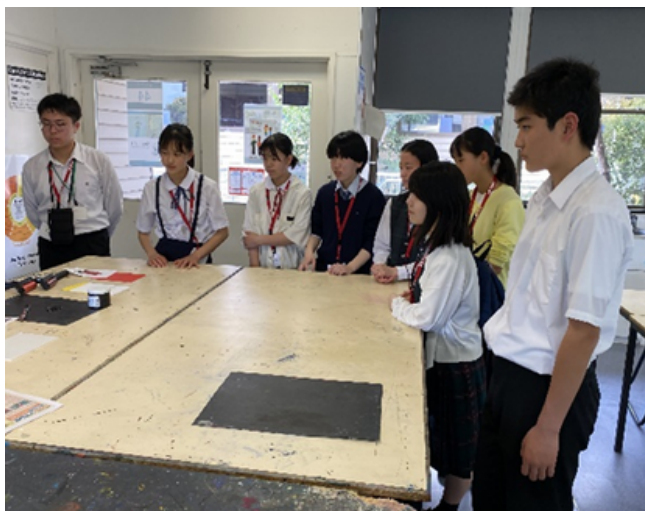


日本語授業体験

お店で買い物をする場面を想定した会話練習等を行った。



版画体験



3月23日 (木)

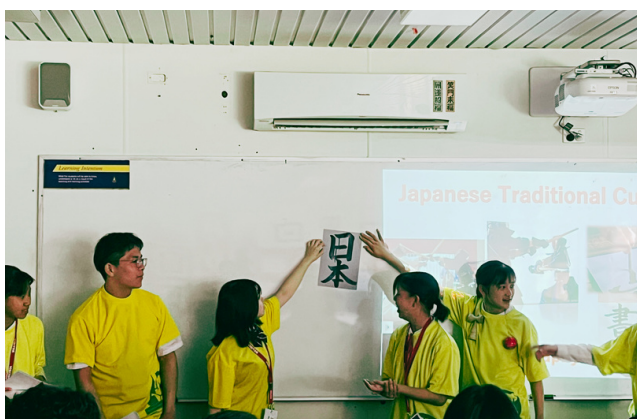
音楽の授業体験



学校内散策



派遣生徒によるプレゼンテーション（書道、折り紙も紹介した）

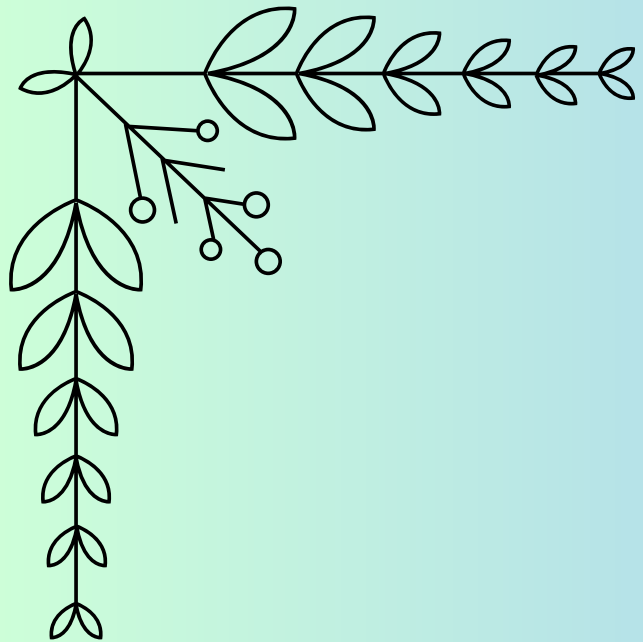


お別れ

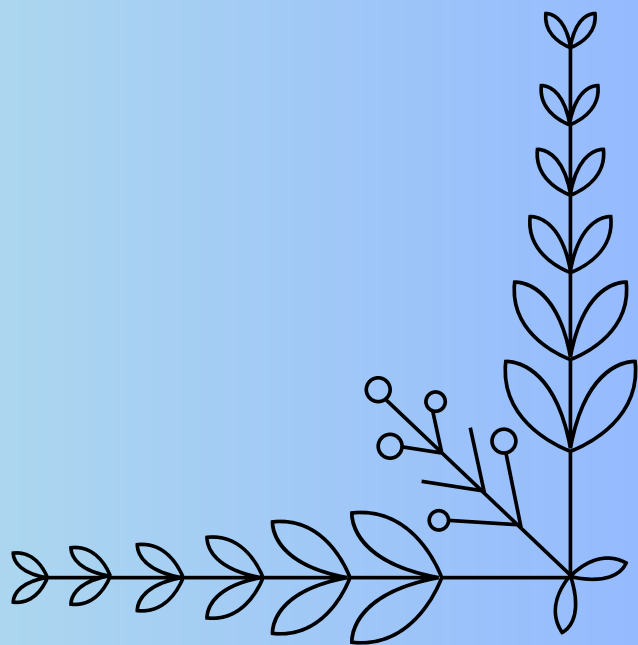


メルボルン市内観光（ユーレカ スカイデッキ88）ホテル泊





派遣生徒 感想



「オーストラリアと日本の違い」

浅井 環希

3月16日から24日までの9日間、私を含めた8名の派遣生はメルボルン観光の後、ホワイトホース市にあるクーン校に登校しながら現地のホストファミリーと生活を共にしました。メルボルン観光中に出会った人々をはじめ、ホームステイ先の家族、そしてクーン校の先生と生徒はとても親切で、私達の滞在をサポートしてくださいました。滞在中にお世話になった現地の方々には今でも感謝しています。

さて、私はホームステイ中と登校中のそれぞれで、オーストラリアの日本とは違う点を2つ発見しました。1つ目は、水の貴重さについてです。私のホームステイ先の家にはバスタブがなく、シャワーのみ設置されていました。さらにホストマザーによると、シャワーから水が出る時間が制限されている家庭もあるそうです。ここまで水が大切な理由は、オーストラリアで雨がほとんど降らないことにあります。私がクーン校でお世話になったバディに話を聞くと、乾燥帯に属するオーストラリアはその中心部が砂漠であり、人が住める環境ではないそうです。ほとんどのオーストラリア人は海沿いに家を建てており、その雨によって生活できる程度の水を手に入れられるのだと教えてくれました。降水量が年間千ミリを超える日本では、海沿いに住んでいなくとも不自由はありません。湿気があまりなく毎日過ごしやすいという利点の裏には、少ない水を大切にしなければいけないという地理をルーツにしたオーストラリアの特性を体験することができました。

2つ目の気づいた点は、人種の多様さについてです。クーン校で授業を受けていた時、教室には黒人や白人、黒髪の生徒や赤髪の生徒までもいることに気づきました。派遣生のバディも、純日本人の両親を持つ生徒、香港人の生徒、オーストラリアと日本のハーフの生徒など様々なルーツを持っていました。現地のインストラクターによると、オーストラリアは移民大国であり、全人口の約5割が純オーストラリア人ではないそうです。日本では居住者の9割以上が純日本人であり、外国人に対して身構えてしまう人も少なくありません。一方、クーン校では、東南アジア系の生徒が白人の生徒と一緒に昼食をとっているなど、お互いの特徴を超えて交流している姿がとても魅力的でした。

今回は松戸市の国際交流派遣としてオーストラリアに渡航し、その国独自の文化を自らの学びに繋げるという貴重な経験を得ることができました。この経験を活かして、松戸市が外国人にとって居心地の良い場所となるように、国際色豊かなまちへと発展していくことを期待します。そして私は一国際人となり、松戸市の国際化に尽力できることを願っています。

日本とオーストラリアの価値観の違いについて -ホワイトホース市姉妹都市交流を終えて-

成嶋 宏燿

私は今回のホワイトホース市姉妹都市交流を終えて感じたことがある。それは価値観の違いである。具体的には外国人に対する価値観の違いと歴史に対する価値観の違いの2点である。1つ目は外国人に対する価値観の違いである。日本において、日本人という言葉は狭く定義されがちである。例えば、日本に長く住んでいても生まれが海外であった場合、私たちはその人を外国人と呼びがちである。つまり、日本で生まれ、日本で育った人のみ日本人と呼ばれるのが一般的である。一方、オーストラリアでは、たとえ住んでいる人がアジア系、アフリカ系、ヒスパニックであったとしても彼らは“オーストラリア人”と定義されている様に見受けられた。具体的には、私がホワイトホースの学校に滞在している際、ホワイトホースの生徒たちが生徒の生まれや肌の色など関係なく仲良く話しているところを見たことである。私はこの光景からオーストラリアにおける多様性は日本に比べ遥かに人々に浸透していることを感じ取ることができた。

2つ目は歴史に対する価値観である。私はホームステイ中に家族の人と共に小高い山に登った。その山はハイキングだけでなく、太平洋戦争中オーストラリアと日本の間で起きた戦闘による犠牲者を追悼する慰霊碑でも有名であった。私はその慰霊碑や展示物を見て初めて外国目線での戦争の被害というものを見ることができた。日本では戦争被害について、東京大空襲や原爆などの、自国から見た被害がクローズアップされがちである。しかし、オーストラリア側の戦争被害を見ることで歴史を客観視し、日本ではあまり知られていない戦争の実態を学ぶことができた。

今回の交流を通じて、自身の英語力だけでなくオーストラリアの多様な価値観や歴史、学校生活の違いなどを学ぶことができた。今後はこの経験を活かし、国際的に活躍できる人材となれるようにさらに努力をしていきたい。



ホワイトホース市市長に直接インタビュー

「言語と文化の壁を越えて」

廣田 華実

新しいことへの挑戦には、新たな発見が伴う。今回の派遣事業を通して、私は全力で楽しみ、学ぶことができた。初めてのホームステイや海外滞在に、自分自身英語が得意ではあるが多少の緊張を感じていた。現地に到着してすぐに、日本とは全く異なる世界観に浸された。オーストラリアに抱いていた野生動物が散在しているイメージは覆され、自然豊かではあるが開発の進んだ都市であるメルボルン。初日と最終日に皆で観光をした。様々な名所に、ガイドの方も素晴らしかった。周りに沢山の外国人がいるのではなく、自分たちが外国人であるという事実と違和感を覚えた。日本と比べて坂が非常に多く、粗い道で揺れるため車酔いの酷い私にとって毎日の長時間バス移動は大変だった。バス内での時間はほとんどが睡眠に充てていた。現地の人々は友好的であった。お店では積極的に声をかけて頂き、会計後には温かい言葉を交わした。

待望のクーンアン校でのバディとの対面は、印象的だった。彼らから質問を日本語でされたことに驚いた。私はそのすべてに英語で答えた。互いに予想外であったのであろうか。すぐに打ち解けて仲良くなった。オーストラリアは一貫して自由であった。日本と比べて学業に費やす時間は少なく、運動習慣があり健康的であった。授業形態も相違点が沢山あった。バディとともに受けた、すべて英語の授業でよく理解できたため嬉しかった。バディとは、一緒に過ごす時間が長くなるほど、お互いをより好きになっていることを実感した。

お世話になったホームステイ先では、できるだけ多く英語で会話することを心掛けた。お子さんの友達が遊びに来ることもあり、日本人留学生に興味津々な彼らから色々な質問を受けた。意味の分からないことは聞き直し、また相手からも聞き返されながら、一つ一つ精一杯回答したのは楽しく、自身の英語力の向上にも繋がった。ホストファミリーには、浜辺や動物園などに連れて行って頂いた。ショッピングセンターでは、日本で滅多に手に入らない洋書を9冊も買った。更に、食生活も違った。スーパーでの生野菜の値段が高額であることに驚いた。また、定期的におやつを食べるため常に満腹状態であった。

全くもって異なる言語や文化でも、気持ちによって心が通じると壁を越えて仲良くなることができた。自分の目で見たもの耳で聞いたこと、そして全身で感じたことのすべてを吸収しようと心掛けた。この8日間は、書き尽くすことができないほど多くの貴重な体験となった。この一生の思い出は、私にとって最高の宝物である。



オーストラリアが教えてくれたこと

松澤 朝

私は、この派遣事業に参加することをギリギリまで迷っていました。人前で話すのが得意じゃない、人見知り、英語が話せない、やめようと思えばいくらでもやめられる気持ちでした。それでもこの派遣事業に参加した理由は、たくさんの方々の後押しがあったからです。やらない後悔より、やって後悔だ！せっかくスピコンで掴んだチャンスだ！とこの派遣事業に飛び込みました。

結論から言うと、この派遣事業に参加して心から良かったと思います。あの時泣きながら参加申込書を書いていた自分を褒め称えたいです。

この派遣事業を通して私は、自分らしく生きることの大切さを学びました。オーストラリアは移民の国と言われているだけあり、学校や街中にも多くの国の方がいました。休日にホストマザーの方に連れて行っていただいた博物館では、オーストラリアの移民の歴史について学ぶことができ、オーストラリアは様々な歴史を経てどんな人にも優しい社会になっているのだなと感じました。

中でも印象に残っているのがホームステイ先での出来事です。最終日、私はスピーチコンテストでの発表映像をホストマザーに見てもらいました。ジェンダー問題についてのスピーチで、すごく個人的なことにも言及しているため見てもらうか迷いましたが、私がこの派遣事業に参加した理由の一つとして、ジェンダーに対するオーストラリアの考え方について学びたいということがあったので、勇気を振り絞って見てもらいました。

するとホストマザーは『私は朝を誇りに思う』と言葉をかけてハグをしてくれました。そこからオーストラリアと日本のジェンダーについての考え方の違いを教えてもらったり、オーストラリアから見た日本の印象を聞いたり、貴重な考えを知ることができました。やはり日本は規律が正されているため、人と少しでも違うと不安を感じる 경우가多くあります。しかしオーストラリアには様々な人がいて、クーンラン校にも本当にたくさんの国、見た目の生徒がいて、自分らしく、人との違いを個性として表に出して堂々としている姿に感動しました。

私も最後にホストマザーが伝えてくれたように、自分に自信をもって、自分らしく生きていきたいと思いました。この派遣を通して、英語力の向上はもちろんのこと私のこれからの人生にとってすごく貴重な経験をすることができました。

関わってくれたすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！



人生って最高じゃん!!

Life is good

松原 花香

「楽しそう。」オーストラリアを一言で表すところ。とにかく生き生きしていた。私にはそれが「人生が楽しい。」って叫んでいるかのように思えた。みんながみんな明るい表情をしていた。日本と違うのはこれだ。とすぐに思った。

オーストラリアにいったあとの私がみる日本は、仕事をするのが当たり前。仕事に支配される毎日。そんな風に見えた。でもオーストラリアは、4時には終わっている仕事が多いこと、サイクリング、ジョギング、運動をあいまに楽しんでいる人がおおかった。

「将来の夢は何ですか？」誰もが小さいころ聞かれたことのある質問を例えばサラリーマンと答えたとする。でも実はその目指した先のサラリーマンはそんな夢のようにキラキラしていない。お金をもらう。その目的だけにとらわれて、毎日ため息をつきながら働いているサラリーマンでした。そんな未来、私は嫌だ。結論。私が一番言いたいことは毎日をもっとワクワク生きる日本、社会がいい。仕事を、人生を、生きるのが楽しいと思える未来がいい。私たち子供の夢の的となる大人はスーツに苦しめられている大人じゃない。仕事楽しい。そう胸をはっていえる大人だと思う。私はオーストラリアについて強くそう思った。

二つ目に私が日本と違うと感じたのは一人一人の個性の差だ。オーストラリアでは「普通」という概念がみあたらなかった。「普通はさ、、、」「君変わっているね。」日本ではこのフレーズをよく聞く。でもオーストラリアは、髪の色、目の色、出身国、容姿、みんな全く違う。性格だって同じ人なんかいない。とても面白かった。固定概念なんかない。誰も自分が人と違うことに違和感を持たない。「これこそが自由だ。」

自由には責任を伴う。学校の先生はよくそういう。でもこの自由は責任なんかいらない。この自由ってすばらしい!!みんな自分に自信をもっているようで輝いていた。みんな楽しそうだった。私も自分で自分を作ろうと思った。誰もまねできない自分だけの自分。そんな自分に自信がもてる自分。それってすごくかっこいいとおもった。

「私はなりたい自分を探すためにオーストラリアに行きたい。」以前、面接で私はそういった。私になりたい私をこれからつくっていく。親が、先生が、なってほしい人間よりも私は自分になりたいたい人間になりたい。この社会がもっとワクワクにあふれている。私のみる世界がそうあってほしい。

「姉妹都市派遣を終えて」

草間 桜彩

今回の姉妹都市派遣は私にとって初めての海外、初めてのホームステイでした。いろいろな不安がたくさんある中でしたが、帰ってきた後には大きな達成感を得ることができました。

初日は、観光をしてからクーン校に行きました。クーン校の人たちと対面し、バディとも会いました。クーン校の生徒たちは、私たちのことを暖かく迎えてくれ、プレゼントをくれました。そして、ホストファミリーとの対面。ホストマザーはとても明るい人でいつも笑っているととても素敵な人でした。小学生の男の子と犬がいるとても賑やかな家庭でした。

私は最初、相手が話していることを理解するのに精一杯で返答もあまりできず、うまく会話をするできませんでした。しかし、ホストマザーはそんな私のことを急かさず待ってくれ、話すスピードをゆっくりしてくれたりしました。また、ホームステイ先が一緒だったメンバーにもとても助けられました。

クーン校では、バディのジャスミンと一緒に行動しました。学校ではたくさんの生徒とすれ違うたびに「ありがとう」や「こんにちは」など日本語で挨拶してくれました。私はそれにとっても感動しました。

日本語クラスでは、お店に入った際の注文の仕方や、日本語での自己紹介などとても楽しそうに授業を受けていました。自国である日本のことを学び、興味を持ってくれていることにとても嬉しくなりました。

また、私は日本のことを深く知らなかったと実感しました。ジャスミンとの通常授業では、日本では体験できない社会や、数学の授業を英語で受けることができました。また、家庭科の時間にオーストラリアのお菓子「アンザッククッキー」を作りました。日本のクッキーとは一味異なりとてもおいしかったです。遠足では、バディたちと動物園に行き、日本では見られない動物たちを見ることができました。そこでバディとお揃いの、カモノハシのキーホルダーを買いました。そのキーホルダーは一生の宝物です。

休日は、ホストファミリーと動物園に行きカンガルーに餌をあげたり、蛇を首に巻いたり、オーストラリアのショッピングモールに行ったり、みんなで海に散歩に行ったりオーストラリアをとっても楽しむことができました。

最終日に、クーン校の生徒の前でプレゼンテーションを行いました。最初は緊張していたけど、クーン校の生徒が反応してくれたりして、徐々に緊張がほぐれていきました。その際にやった書道では、「おー」などたくさんの歓声上がり、日本の文化を見せることができるととても嬉しかったです。また、けん玉を披露した際も、けん玉に興味を持ってくれた生徒がいて更に嬉しくなりました。その後みんな折り紙で鶴を作りました。英語で説明するのはとても難しかったけれど八日間過ごしてきた成果がそこで発揮でき、伝えられた時は自分の言いたいことが伝えられるってこんなに楽しいんだと思えるようになりました。いろいろな生徒に「ありがとう」と言ってもらえてすごく嬉しくその時の喜びは、忘れることはないと思います。

「ありがとう」は世界共通の言葉だなと改めて強く感じました。ホストファミリーと過ごす最後の日に、ケーキで誕生日を祝ってくれました。突然のことでとてもびっくりして泣きそうになってしまいました。一緒に行ったメンバーもサプライズで色紙をくれました。ジャスミンも誕生日の手紙をくれ、最高の誕生日になりました

今回の姉妹都市派遣を通して私は、他の国の人とのコミュニケーションの大切さ、言語が違う中での相手と理解し合うにはどうしたらいいかなどたくさんのことを学びました。世界にたくさんの国がある中の一つでも、文化や生活の仕方が違うことにも気づかされました。私はこの留学を得て、将来英語を使って何かできる仕事をしたいなと思いました。世界を繋ぐ橋になれたらなと思いました。これからは、今回出た課題と向き合って英語を学び続けていきたいです。この派遣に関わってくれた方々本当にありがとうございました。

Thank you 



オーストラリアでの日々

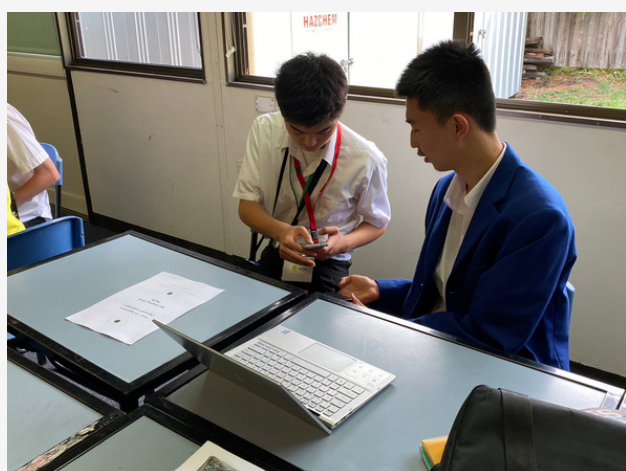
石井 晴琉

私は小学校1年生の頃から英会話教室で英語を勉強していましたが、完全な英語圏の国に行くのは初めてでした。学校内や英会話教室での成績やテストの点数はほとんど1番で、英語検定なども周りの人たちより1つや2つ先の級を持っていました。しかし今回初めて英語圏の国に派遣させて頂いてホストファミリーやクーン校のバディ、他の生徒と話していると自分の英語が通じなかったり、相手の喋っていることが聞き取れないなどのことがたくさんありました。現地の人たちと話していると、自分の未熟さに気付かされました。

オーストラリアでの生活は、毎日が新しいことだらけでした。シャワーの時間はとても短く、スーパーでは大きなものが多く置いてありました。ホストファミリーと過ごした日々は毎日が印象的で、忘れることのできないものになりました。私のホストファミリーはオーストラリアンフットボールというオーストラリア独自のスポーツの熱烈なファンでした。オーストラリアでは日本のようにサッカーや野球ではなく、オーストラリアンフットボールが人気なので、クーン校の生徒も校庭でこのスポーツをしている人が多くいました。ホストファミリーとテレビでオーストラリアンフットボールの試合を見ているとホストマザーは声高々に観戦して激しい試合になってとても盛り上がりました。最終的には私達の応援していたチームが勝って、とてもいい終わり方をすることができました。

クーン校のバディはとても優しい方で、次の授業の教室に案内してくれたり、自分が取ってない授業の教室にも案内してくれました。

ホストファミリーやバディと別れるときはとても悲しくて、日本に帰りたくないとさえ思いました。これらの経験から私は、自分の英語をもっと鍛えたいと思いました。鍛えられた英語でもう1度オーストラリアに行ってホストファミリーやバディと後悔のないように流暢な英語で会話をしたいです。



オーストラリアで感じたこと

堂本 夏帆

私は、オーストラリアでたくさんを感じました。

まず、日本との違いに驚きました。地震がないから日本にはない形や高さの建物や看板があったり、雨が降らなくても大丈夫な珍しい植物や動物がいたり、食文化も違いました。日本とオーストラリアは季節が逆なので、楽しみにしていたけど、春と秋で気温があまり変わらなくて残念でした。

ホームステイ先では皆が優しく接してくれて嬉しかったです。私の英語があまり上手でなくても、私に伝えようとしてくれたり、たくさん話しかけてくれるし、私が何かを伝えようとした時も分かるうとしてくれたので、一人でも大丈夫でした。何を言っているか分からなくても、歓迎してくれているのは分かりました。

学校の皆もととても親切で、特に日本語クラスの人達がたくさん話しかけてくれたし、校内で迷子になった時も助けてくれました。バディはとても責任感があって、優しかったです。分からないことがあっても、バディに聞けばすぐに解決するし、学校が終わっても私がバスに乗るまで一緒にいてくれました。日本語で話してくれるのでずっと頭を使わなくても良かったので安心できました。先生も皆私達に配慮してくれて、一対一で話す時もずっとニコニコしていて、私が不安にならないようにしてくれました。日本語を教えていない先生も、私を気遣って簡単な英語を使って話してくれました。

外国の人は背が高くて、怖いイメージでしたが皆温かくて全然怖くありませんでした。

料理は日本と違うなど、とても思いました。日本はあっさりとした味付けの料理が多いですが、オーストラリアは味がこくて、量も多かったです。オーストラリアではあまり野菜が出ないので、野菜嫌いの私には嬉しかったです。日本は健康的な料理が多いのだなと思いました。

オーストラリアは楽しかったし、外国に行くとその国の良さも、日本の良さも分かるので、また外国に行きたいと思いました。

姉妹都市 ホワイトホース市

Sister City Whitehorse

オーストラリアビクトリア州の州都メルボルンから東へ約15km、電車で約20分の距離にある街。面積は約64km²で松戸市（約61km²）とほぼ同じ広さ。人口は約15万人で、松戸市（約49万人）のおよそ3分の1です。

ホワイトホース市は、約350の公園や保護地区をもち「ガーデン・シティ」とも呼ばれ、自然の緑と人々の活気が調和した街です。また、市内には小学校が38校、セカンダリー・カレッジ（中・高校）が14校、専門学校が1校、大学が1校あり、社会人向けの生涯学習施設も充実していて、「City of Learning(学びゆく都市)」をモットーにした街づくりを進めています。

松戸市とは1971年（昭和46年）より姉妹都市提携を結んでおり（当時はボックス・ヒル市）、2022年（令和3年）5月12日で姉妹都市提携51周年を迎えました。



